2016年度企業家研究フォーラム賞選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員会委員長
原　拓志

著書の部

著書の部では，次の2作品が受賞作となった。

⑴ 『近代日本の地方事業家――萬三商店小栗家と地域の工業化』
（日本経済評論社，2015年12月）

井奥成彦　（慶應義塾大学）（編著者）
石井寛治　（東京大学名誉教授）
市川大祐　（北海学園大学）
伊藤敏雄　（大阪大学）
落合　功　（青山学院大学）
中西　聡　（慶應義塾大学）（編著者）
中村尚史　（東京大学）
二谷(中西)智子　（愛知学院大学）
花井俊介　（早稲田大学）
山口由等　（愛媛大学）

本書は，愛知県の中規模の資産家であり，肥料商・醤油醸造業を営んだ小栗家の18世紀後半～20世紀前半にわたる大量の経営資料を多角的に分析した共同研究の成果である。10名の研究者による共著であるが，論文集ではなく，それぞれ分担して行われた単一の研究として評価できる。内容については愛知県知多半田地域における肥料商，醤油・清酒醸造業などの事業展開と地域との関わりについて膨大な一次史料から解明を試みたものである。地域事業家による地域の工業化という論点も有意義である。各章とも史料に基づく手堅い実証研究であり，詳細な事例分析に基づいて近代日本の地方事業家に関して新たな知見を加えた意義は大きい。

⑵ 『大学発ベンチャーの組織化と出口戦略』（中央経済社，2015年3月）

山田仁一郎　（大阪市立大学）

本書は，大学発ベンチャーについて先行研究で見落とされてきた出口戦略に注目し，大学での研究から出口までの全過程を視野に入れ，明確な分析枠組みを準備して，長期間に

わたる入念なケース・スタディーによって，大学発ベンチャーを理論的・実証的に分析した，その研究領域における本邦随一の研究である。大学での発明が事業化されるまでの，企業家的研究者を含む利害関係者の複雑な相互作用による企業家チームの組織化過程や企業家的研究者自身およびベンチャーの出口戦略の形成過程など，大学発ベンチャーの実態を多面的に明らかにしている。また，本書で論じられた理論的フレームを援用することによって様々な企業家活動の研究が可能になると思われる。

論 文 の 部

論文の部では，残念ながら該当者がなかった。

特　別　賞

特別賞は，大阪大学名誉教授の宮本又郎先生に差し上げることを決定した。

宮本又郎先生は，第 31 回日経・経済図書文化賞を受賞した『近世日本の市場経済――大坂米市場分析』をはじめ長年にわたり近世及び近代における日本の経済史，経営史，企業家研究において学界をリードする優れた研究を多く積み重ねられる一方で，2001 年～2004 年に経営史学会会長を務められるなど学会活動にも大いに力を尽くされた。なによりも，企業家研究フォーラムの設立に中心となって尽力され，初代会長として 2002 年～2015 年の 14 年間という長期にわたって，同会を牽引してこられた功績は偉大である。さらに 2008 年以降は，大阪企業家ミュージアム館長としても企業家研究の振興や普及に今なお貢献されつづけている。このたび，企業家研究フォーラム会長を勇退されたことを機に，会員の感謝の意を込めて特別賞を差し上げることを委員会において満場一致で決定した。